

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0106 NO72

校長 伊波喜一

メタボとは 体のことと 思いがち 気をつけたいナ 知識メタボに
現代人の接する情報量の一日分が江戸時代260年間分と匹敵
する、というのは過去の話です。PCの普及に加えて人工知能の開
発で、私達はもはや処理できない程、情報のシャワーを浴び続けて
います。まさに、情報メタボです。筆者もSNSや新聞、雑誌、書
籍と離れては一日も暮らせないぐらい、活字中毒です。しかし、接
する活字や情報の全てが有益かと言われれば、?としか答えようが
ありません。人は覚えた事を20分後には42%忘れ、一日後には
74%忘れるといいます。なぜ、ソレホド ワスレルノカ? 忘
れることで脳から不要なものを取り除き、記憶に軽重がつくからで
す。やがて一週間・一月も経てば、不要な記憶は跡形もなく洗い流
され、必要最低限のものしか残りません。このようにして、情報メ
タボになりそうなところを、防いでいるのです。多くの情報に流さ
れず、不易は何かを考えることは、その有効な手立てとなります。
たとえ10分でも、一日を振り返り、心に残ったことを書き留め
ておく。それがエッセンスとなり、やがて芯となっていくのです。